

ほんとうにあた
難民の家族と
ねこの物語

もし、難民に
なにかをして
あげたいと思っ
たら、あなたなら
なにができるか、
考えてみてくだ
さい。



＜内容紹介＞

紛争などのために、着の身着の
ままにふるさとの国から逃げ
ださなくてはならないおかあさん
と子どもたちの姿を想像して
みてください。そして、もし、その
とちゅうでかわいがっていたねこを
見失ってしまったとしたら……。
ねこは、飼い主家族と再会
することができるのでしょうか。

せんそうがやってきた日 (ニコラ・デイビス 作、レベッカ・コップ 絵、長友恵子 訳)

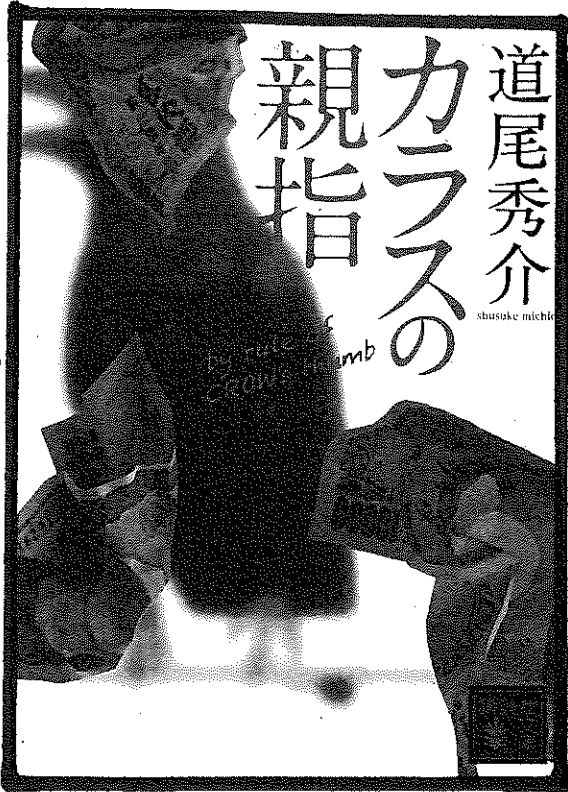


～そしてランチタイムの
すぐあとに戦争がやってきた～
せんそうがやってきた日
まどべには 花がさき
おとうさんは おとうとに
ずもりうたをうたっていた
おかあさんは朝ごはんを作り
わたしの鼻にキスをして
学校までおくってくれた

2016年の春に、イギリス政府は3000人の孤児の難民の避難所収容を拒否しました。同じような
時期に、座るイスがないとの理由で、難民の女の子が学校への入学を断られました。
そのことを聞いて、この詩を書きました。(作者 あとがきより)

5月のテーマ…本の中に鳥をさがそう！

カラスの親指 (道尾秀介)



(あらすじ) 人生に敗れ、詐欺を生業として生きる中年二人組。ある日、彼らの生活に一人の少女が無い込む。やがて同居人は増え、5人と1匹に。「他人同士」の奇妙な生活が始まったが、残酷な過去は彼らを離さない。人生を懸け、彼らが企てた大計画とは？

コウノドリ (鈴ノ木ユウ)



(マンガ本は、貸出できません。図書館の中で読んでください。)

<内容紹介>

出産は病気ではない。だから、患者も家族も安全だと思い込んでいる。出産は命の危険と隣り合わせだ。100%安全などあり得ない。それが出産。年間100万人の命が誕生する現場から、産科医・^{つうじ}鴻鳥サクラの物語。

動物たちは、建築家！ (ダニエル・ナサル 文)

本の中をのぞいて見ると…

コウノドリ

巣はとても大きいため、重くなることもある。(たとえばライオンほどの重さ、つまり250キロほど)。人家の屋根をこわしてしまふこともある。

<それでも、コウノドリがすみつく家には、幸運がやってくると伝えられている>



ハタオリドリ

木にぶら下がった家。巣をつくるのはオスで、その理由はつぎのとおり。

- すてきな家をつくれる能力をメスにアピール。
- 安全にひなをかえして、育てる。